～Current：時代の流れ あるいは 新しい潮流～

かれんと

2019.2.25
No.54

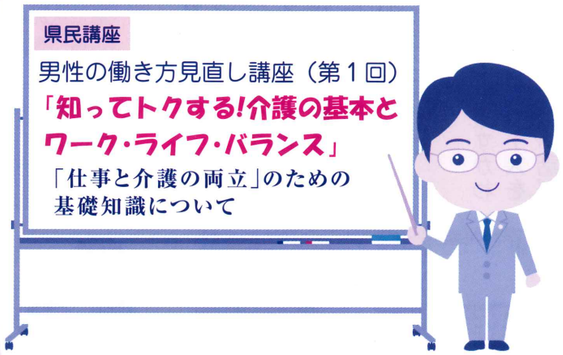
これからの男性の家事・介護・育児!

最近、家事に関する男性向けの講座が増えてきているようです。学びの背景には、家族やパートナーである女性の社会での活躍や、男性の家事への意識の高まりがあります。その現場である、男性向けの講座を取材しました。

「仕事と介護の両立に悩んでいる会社員Aさん」の事例

Aさんは認知症の75歳の母親と二人暮らしをしています。一人で母親の介護をしながら、仕事も手を抜かない日々を過ごしています。早朝からお腹がすいたと訴える母親に朝食を食べさせ、母親の昼食の準備をして、注意事項を何度も耳元で伝えて出社します。仕事を終えて疲れて帰宅しても夕飯、入浴、就寝の介助が続きます。日中、探し物をした母親がタンスから全ての洋服を外に出して、部屋が足の踏み場もなく散らかった状況だったり、失禁したことを隠したい母親が、汚れた下着をタンスの奥にしまっていたりと、日々事件が起こります。

母親が家族以外の人の世話になる事を嫌がるため、Aさんは介護の支援は一切受けず、職場でも弱音を見せたくないと頑張っています。心身の疲労が極限に達し、何かのきっかけで、母親とともに共倒れになりそうな状況です。「会社を辞めたら、少しは楽になるかもしれない…」と考え始めています。



講師：明治安田システムテクノロジー（MY介護）蔵本孝治さん

日時　12月1日(土)
場所　とちぎ男女共同参画センター

この講座は男性が家族の介護に直面したときの対処・準備の基本を学ぶ目的で開催された講座です。受講者は男性15名。子育て中の方から、定年後の方など様々な年代の方でした。

最初にワーク1として事例が挙げられました。これを読んであなたはどう感じますか？

募集します

情報紙「かれんと」編集員
男女共同参画セミナー運営委員

任　期　平成31年4月1日から1年間
募集人員　かれんと 1名
　　セミナー 2名
募集条件　かれんと　20歳以上の市内在住者で、公務員又は公務員に準ずる団体の職員以外の人
　　セミナー　20歳以上の市内在住者で、年間8回程度出席できる人
応募方法　どちらも3月13日(水)までに、応募用紙を提出して下さい。用紙は人権推進課にありますのでお問い合わせください。
電話(63)8352

「日本女性会議2019さの」

～ようこそ!「人生100年時代」さあ、共に語り、絆結ぼう。～

日本女性会議が佐野市で開催されます!

大会日程　2019.10.25(金)～27(日
会　　場　佐野市文化会館ほか
※詳しくは専用ホームページか電話で
https://jwc2019sano.jp
Tel 0283-61-1140
佐野市役所 人権・男女共同参画課内

鹿沼市ホームページから「かれんと」バックナンバーがご覧いただけます。
トップ＞福祉・健康＞人権・男女共同参画＞男女共同参画＞男女共同参画情報紙「かれんと」バックナンバー

開催しました －男女共同参画係から－

ときめき鹿沼2018　講演：小宮山洋子さん「女と男 豊かな生き方」

9月8日(土)1:30～
場所 鹿沼市民情報センター5階

講師の小宮山さんは、NHKを退職後、政治の世界へ身を投じ、厚生労働大臣や内閣府特命担当大臣(少子化対策担当)として、少子高齢社会、女性活躍などに取り組まれ、2013年に政界を引退されました。

超高齢社会(高齢者が人口の21%以上)が問題とされている中、日本の高齢率(27.7%)は世界一というお話から、社会保障を受ける人と支える人の割合の変化や、女性の政治参加、高齢社会における高齢者の生きがい、同一労働同一賃金、女性の生き方、さらには子どもの貧困などへ話が広がりました。小宮山さん自身も、「自分に出来る事」として、「こども食堂」や「児童養護施設」へボランティアとして参加しているそうです。

超少子高齢社会を生きるにあたって、女性だから男性だからと言っている場合ではない、自分が出来る事をやって、次の世代に少しでもましな日本を手渡したい。そのためのキーワードは『共に』。ボランティア活動を通じて様々な新しいご縁を結んでいく事が、今の私の生き方ですと締めくくられました。

男女共同参画セミナーinかぬま

今年度のテーマ「誰もが幸せになれる社会を目指して、私たちにできること」

第１回	災害時、私にできること	レスキューストックヤード　浦野愛さん
第２回	心のバリアフリー	特別養護老人ホーム　オレンジホーム　星野正人さん
第３回	かぬまの魅力再発見!!	かぬま地域おこし協力隊（森﨑礼子さん　イザギレ・ファビアンさん　大島由紀さん）
第４回	バス研修	大田原～雲巌寺とhikarinocafé蜂巣小珈琲店（多機能型障害者福祉サービス事業所）

※今年度も、４回開催しました。受講生はのべ１６９名、各回とも熱心にご参加いただきました。

❤かれんとイチオシ❤「お・も・て・な・し」

ある講座で聞いた話です。

ある日、若いご夫婦がディズニーランドのレストランに入りました。席を案内され「お子様ランチ」を注文すると、キャストが「お子様ランチは8歳までのお子様限定のメニュー」と丁重にお断りされたそうです。落胆するご夫婦を見て、キャストは特別な理由があるのではと思い尋ねると、ご夫婦には生きていれば2歳になる女の子がおり、2歳の誕生日には家族三人でディズニーランドで「お子様ランチ」を食べる約束をしておりました。お話を聞いたキャストはお二人をファミリーの席へと案内し、二人の間に子供用の椅子を用意。あたかもお子様がいるかのように「お嬢様お誕生日おめでとうございます。これは当ランドからのプレゼントです」とお子様ランチをテーブルに。二人は感動し、泣きながら食事をされました。

私達も、鹿沼にお目見え下さるお客様を出来うる限りの「おもてなし」を持ってお迎えしたいものですね。

編集後記

先ごろとても気になるワード「日常生活で、取り入れたい健康法」いろいろ検索してみました。一番は食生活、1日3食、糖分脂質は控えめに「腸活」「運動」がおススメとの事。もうだれでも周知の言葉ですね。しかし、これまで真剣に食事に関しても取り組んだことがなかった自分がいました。「さあ今日から始めます!」宣言する事で後に引けなくなりました。1ヶ月度が楽しみです。皆さんも応援お願いします。

編集員 福田万里子・高橋和子・太田吉友・佐々木澄江

「かれんと」はボランティア編集員が担当し、作成しています。

〈編集〉ボランティア編集員 〈発行〉鹿沼市　〒322-8601 鹿沼市今宮町1688-1　市民部人権推進課　☎0289(63)8352

男性の働き方見直し講座 つづき

介護に直面した時に会社を辞める？

事例をもとに「仕事を辞めるか辞めないか」をグループごとに真剣に話し合い「私なら会社を辞める選択はしない」等の意見が出ていました。

講義では、認知症・老衰など病気によって介護に必要な期間は様々であり、経過も違ってくる事、介護する人は嫁から配偶者や実子へ変わっている事、サービスを利用しながら仕事を続け、精神面・肉体面・経済面のバランスを取る事が大切であるなどお話しされました。

また、ケアマネージャーは皆さんの仕事の状況は分らないので相談することも重要だそうです。

講座終了後、講師からお話を聞きました。妻の親と自分の親の介護が同時に必要になることもあり、最近では男性からの介護相談が増えているそうで、事前に問題意識を持つことが大切だという事です。また、ご自身の親は遠距離にいたので、介護が必要となった際には直接ではなく、離れたなりのサポートをしたと言われた事が印象的でした。

介護が必要になる前の準備として

- どこで暮らしたいか
- 介護についての本人の希望
- 経済状況
- 近所づきあい
- 健康状態
- 終末期医療の希望

などについて元気な時から話し合っておくことが大切です。

《男性受講者の声》

Aさん(30代)

・妻が男女共同参画センターで主催している別のセミナーに参加した事から、妻に勧められて参加しました。家での心構えなどが、倒れてからではなく、事前に聞けて良かったです。

Bさん(60代)

・どちらがいつ身体を壊すかわからないので、市政ニュースをみて参加しました。幅広い話が聞けました。

こうした事前準備をしておくことが、誰もが暮らしやすい社会へ結びついていくのではないか、そして男女問わず考えていく必要があるのではと思いました。

第2回イクメン・イクジイフォトコンテスト

応募総数55点から、鹿沼市男女共同参画社会づくり実行委員会による厳選かつ公正な審査の結果、大賞各1点、準大賞各1点、入賞各3点が決まり、9月8日に開催された「ときめき鹿沼２０１８」で表彰されました。

今回、イクメン大賞を受賞された酒井一憲さんと、イクジイ大賞を受賞された三品明さんにお話を伺いました。

Q1 コンテスト応募のきっかけ　Q2 受賞の感想また反応は？
Q3 これからの子育て孫育て　Q4 男性の家事事情について

イクメン大賞　酒井一憲さん

仲良く並んでニコニコ ピカピカ

A1 2年前に妻がこの賞の存在を知り、次回は応募しようと思っていました。

A2 自然にしている事を評価して頂いて嬉しいです。友人から反響があった事も率直に嬉しいです。

A3 仕事もありますが、消防団に所属していますので、なかなか家に居られませんが、家事をすると、子ども達と一緒にいられる時間が増えて嬉しいです。

A4 男女共同参画という言葉は、「かれんと」を見て知っていました。親の世代は男性が家事をやらない事が当たり前ですが、これからどんどん家事をする男性が増えるといいですね。

イクジイ大賞　三品明さん

いつもジイにくっついて。

A1 娘が出したいと言って、ちょこちょこ面白い所を撮った一枚です。

A2 特になかったかな。私だってわからないと思うよ。ちょっと恥ずかしかったかな(笑い)でも、ありがたいし、嬉しかったです。

A3 初めは面倒くさいと思っていたけど、今は可愛くてたまらないです。純粋無垢で、花が咲いた様に明るくなる。孫は責任が無い分守ってあげたいですね。

A4 わたしは全然しないけど、今の若い世代はお互い分担してうまくやっている。大したもんだなあと思います。

※ご協力ありがとうございました。お子さんと一緒に家事を楽しんでいる酒井さんと、お孫さんを見つめる優しい姿が写真そのままの三品さんでした。これからもイクメン・イクジイとして力を発揮してください。

男性向けの料理教室「男の台所」

～男の台所とは～
男女共生社会を目指して活動しているグループ「鹿沼アテップの会」が、＊手と手を結び、そして拡げる＊の合言葉のもとに立ち上げたのが「男の台所」で、現在「男の台所の会」「ゆずの会」「かきなの会」「なすびの会」の４チームが活動しています。アテップの会では講師派遣、レシピ作成、食材準備を補佐し、今後は独立運営する会に育つ事が目標です。

＊本日のメニュー＊
・サバ缶と野菜の炊き込みご飯
・酢豚
・芋なます

日時　12月9日(日)
場所　北押原コミュニティセンター

北押原コミセンを拠点に「男の台所」を展開し13年、包丁さばきも鮮やかな「なすびの会」の皆さん。最高齢者80歳台4名の会員を筆頭に18名の会員をまとめるのは3代目になる須佐会長。「男は仕事」そんな時代を過ごしてきた世代の皆さんには入会当初は料理が作れるのか不安があったそうですが、手際よく素晴らしい腕前を披露してくれました。自分が作った料理をご近所さんにおすそ分けし喜ばれることもしばしばとか。「男の台所」最大の魅力は?との問いに、「男だけで作る」こと、また新たな料理を探しての食べ歩きも楽しみの一つと答えて頂きました。高橋先生のレシピの説明に真剣に目を向け耳を傾ける皆さんの姿に、一流のシェフ(主夫)を彷彿させられました。「なすびの会」の皆さん作り立てのお料理をご一緒させて頂きありがとうございました。

＊＊＊取材を終えて＊＊＊

超高齢社会を迎え、料理も介護も子育ても、これら家事全般を女性任せにしていた時代は過ぎました。これからは男性も女性もお互いに支え合う時代です。講座に参加されている皆様は、気づき、家事を学び、実践し、笑顔に溢れていたことがとても印象的でした。家事に対する男性の意識がますます向上し、それに伴い、女性も男性も住みやすい社会に変わって行く事が望まれます。